

トレーニングレポート通信

中国労災病院
薬剤部

No.7
2022年11月号

今回のトレーニングレポート通信は吸入指導と低血糖リスクについての事例です！

事例①：吸入薬指導についての報告

76歳 男性 呼吸器内科

テリルジー®100エリプタ 30吸入用	1回1吸入	1日1回
ジャヌビア®錠50mg	1回1錠	1日1回 朝食後
ネキシウム®カプセル10mg	1回1CP	1日1回 朝食後
ニフェジピンCR錠20mg	1回1錠	1日1回 夕食後
アジルバ®錠20mg	1回1錠	1日1回 夕食後
マグミット®錠 250mg	1回1錠	1日2回 朝・夕食後
ミグリトールOD錠50mg	1回1錠	1日3回 朝・昼・夕食直前
レバミピド錠100mg	1回1錠	1日3回 朝・昼・夕食後
カルボシステイン錠500mg	1回1錠	1日3回 朝・昼・夕食後

半年前よりテリルジー®100エリプタが開始となっていた患者が保険薬局へテリルジー®100エリプタの再指導を希望された。保険薬局から吸入指導加算算定の疑義照会があり、医師へ確認したところ吸入指導指示が追加となった。

保険薬局にて手技を確認したところ、吸入力が弱くきちんと吸入できていないことが判明し、笛を用いて再指導。指導内容を報告したトレーニングレポート。

- | | | |
|---|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 継続の必要性が乏しい薬剤についての情報提供(ポリファーマシー等) | | |
| <input type="checkbox"/> 服薬状況 | <input type="checkbox"/> 継続の必要性が乏しい薬剤 | <input type="checkbox"/> 副作用(重篤でないもの) |
| <input type="checkbox"/> 経口抗がん剤 | <input type="checkbox"/> 手技：自己注射 | <input checked="" type="checkbox"/> 手技：吸入薬 |
| <input type="checkbox"/> オピオイド | <input type="checkbox"/> その他 () | |

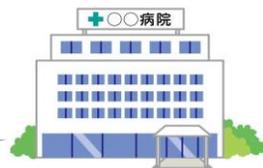
報告内容

情報提供・提案事項

テリルジー®100エリプタに味や感覚が無いいため何度も吸い直しており、患者から再指導の希望あり。1回の吸入で十分効果があることを口頭で指導したところ、理解して頂きました。
薬局で実際に吸入して頂いたところ、吸入力が弱く、うまく吸い込めていないことが判明し、笛を用いて再指導しました。1回で吸い込めなければ何度かに分けて吸入するようにアドバイスしました。
吸入後、数秒息を止めることも指導しましたが、呼吸機能が低いいためか難しいようでした。うがいは行えていることを確認できました。今後も段階的に指導を継続する予定です。

薬剤部より

情報提供ありがとうございます。内容を確認し、カルテ記載で主治医へ報告しました。



吸入薬は、初回に当院で吸入指導を実施していますが、2回目以降は保険薬局の先生方にフォローしてもらっています。フォローアップ時に再度指導が必要な場合は、主治医へ確認を取りますので薬剤部に疑義照会で連絡して下さい。
また、指導内容の報告はトレーシングレポートを活用して下さい。

当院での吸入指導の流れ

< 初回指導 >



薬剤部で初回吸入指導



保険薬局で吸入薬を交付



< 2回目以降 >

吸入薬の指導指示の疑義照会

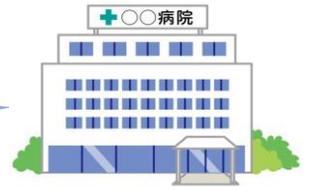
主治医に確認後、吸入指導指示

吸入指導後
指導内容をトレーシングレポートで報告



薬剤部より

情報提供ありがとうございます。内容を確認し、カルテ記載で主治医へ報告しました。



👉 報告後

HbA1cの値が改善せず、報告の半年後に血糖コントロール目的で入院した。入院時に確認したところ、自宅で低血糖は起こっていなかったが、昼食後の薬の飲み忘れやインスリンの注射忘れがあった。

ネシーナ[®]錠25mg 1回1錠 朝食後が追加になり、また、インスリン注射の手技が自己流だったため、病棟薬剤師がインスリン注射の再指導を行い、手技は改善した。

入院中、他疾患に罹患し、造影検査でメトグルコ[®]錠の休薬が続いたが、インスリン注射とネシーナ[®]錠で血糖コントロールできていたため、メトグルコ[®]錠は中止し、ネシーナ[®]錠25mgとインスリン注射を継続し退院となった。

残薬調整時に、用法を誤認していたことが発覚した事例でした。

用法・用量の定期的な確認や、インスリン注射の手技の確認が大切です。必要に応じて疑義照会に対応してください。

当院はインスリン注射の導入時に指導し、入院中に手技の確認、再指導を行っていますが、外来でのインスリン注射の手技確認など、フォローアップをお願いします。